

リーダー養成講座 ～はじめの一步 この指とまれ～ が始まりました！

千葉県内でリーダーとして活動している人・これからリーダーになる人を対象にリーダー養成講座第1回は、9月11日(日)「明日から使えるKP法」-KP法で学ぶリーダーのためのコミュニケーション・ファシリテーション-として、講師に日本環境教育フォーラム代表の川嶋直(ただし)氏をお迎えして千葉県青少年女性会館(千葉市稲毛区)で開催しました。

KP(紙芝居プレゼンテーション)法の説明後、講師を知っているかのGCP(グーチョコキパー)アンケートで受講生の気持ちをつかみ、KP書く・話すためのマーカーの使い方練習後に、実践として、グループの受講生同士で「自己紹介」KPをしました。川嶋講師の自己紹介は、清里の自然の中での教育活動歴等でした。その後「伝えること」について考え、「聞いた事は忘れる」「見た事は覚える」「やった事はわかる」「発見した事はできる」の体験と発見が大切で「言ったらわかる」と思うのは、傲慢で、「伝えるためにはあらゆる工夫を」というお話にも納得でした。教育から環境教育の熱いKP後は、午後からの「やってみようKP法」

(写真参照)で一人一人が「今一番気になっていること・伝えたいこと・私の好きな○○○」などのテーマで発表しあいました。

次回11月5日(土)に向けて「最新環境情報」取材してKP法で伝えよう」という課題も出されて終了となりました。新規申込みも受け付けています。ぜひ参加してください。

(文責 横山 清美)



「第21回 東京23区とことん討論会」に参加しました

プラスチックスープの海

第21回とことん討論会が7月29日(金)、千代田区役所で開催されました。基調講演は、高田秀重氏(東京農工大学農学部環境資源科学科教授)による「プラスチックスープの海とプラごみ削減-プラ混じりの魚、食べますか?-」でした。

プラスチックは、石油から作った安っぽい素材の代表。おっと「安っぽい」なんてプラスチックに対して失礼ですね。木や鉄、また綿など、様々な天然素材の手軽な代替素材として、柔軟に姿形を変えリーズナブルな雑貨や衣類など利便性を提供してくれています。

しかし、それがスープとなるとどうでしょう。スープは世界中、古今東西、それぞれの食文化の中で最もポピュラーな料理であり、食とは命の源です。

この違和感ある二つの言葉「プラスチックスープ」。なんとも「キショクワルイ」。そして、今現在、海がプラスチックスープになっている。不気味さと危機感を抱く感受性がまず必要です。

推定、海鳥の90%がプラスチックを誤食

石油産出量の8%がプラスチックとなり、年間3億トンのプラスチックが世界で生産されている。

日本では、ペットボトルの83%がリサイクルされているが、その他が自然界環境に放出されている。海から遠いと思っても、陸上でのポイ捨て、迷子のゴミが太平洋の海ゴミになっている。プラスチックは紫外線や波の力でどんどん小片化、微細化し、海中や海底に広がりたまっていく。海鳥だと約90%がプラスチックを誤食していると推定されている。500gの海鳥の体内から0.6gのプラスチックが出てきたが、人間だと約60g、両掌でおわんにして軽く1杯ほどの量になるという。さらにプラスチックの毒性が生物濃縮し、その悪影響は計り知れないこと、海の環境改善対策が困難なこと、海は(海底も含め)私たちの日常生活から遠く関心も薄い。海ごみ問題の困難さには絶望感さえ覚えました。「予防原則」が大事で、後から手当するのではなく、事前に防ぐことが重要だとのことでした。



ごみは分別するだけでは減りません！

すでに世界中の海に、深海にまで大量に放出されてしまっている海ゴミ。推定90%の海鳥がプラスチックを誤食している。私たち一人一人がすべきことは、何ですか？ (文責 中村 明子)